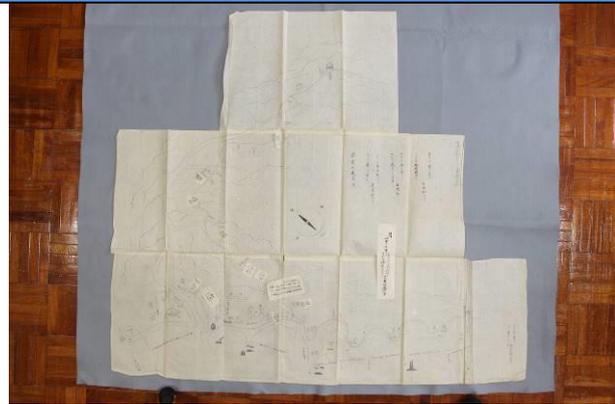


余市水産博物館

余市湾を中心とした「海の歴史」学習プログラムの構築に係る基礎的研究

—「林家文書」からみるヨイチ場所における近世場所請負制度の様相—

調査研究期間：2023年4月1日（土）～2024年3月31日（日）



【調査研究の内容・目的】

■余市町は、北海道の西部、積丹半島の東の付け根に位置し、町の北側は日本海に面し、他の三方はゆるやかな丘陵地に囲まれた町であり、先史時代より自然の恵みを享受し、交易の中継地点として栄えてきた。特に、近世から明治期にかけて、北前船の寄港地としてニシン粕を輸出し、瀬戸内における綿花栽培や藍栽培、煙草栽培等の日本列島の発展に寄与した。

■その中で、近世から明治期にこれらの物流交易の中継地として機能した「旧下ヨイチ運上家」は、近世北海道の場所請負制度を担った場所請負人が管理する交易所及び役所の機能を有し道内の各「場所」に設置された「運上家」と呼ばれる施設の一つで、現存する建物としてはこの「旧下ヨイチ運上家」が唯一であり、「旧下ヨイチ運上家」の場所請負人・林長左衛門が残した「林家文書」は、運上家の運営や漁場での生活を知る重要な資料であり、余市町における海運やニシン漁の様相や歴史を伝える貴重な資料である。

■しかし、当資料は、その数が膨大であることや資料の散逸により資料の所有施設が複数あり、資料の全容が明らかになっておらず、調査研究及び利活用が困難であり、横断的な資料調査及び目録の作成が急務となっている。このことから、「林家文書」の横断的かつ悉皆的な調査を行い、「林家文書目録」を作成し、その中から町の歴史に関する事柄を抜き出し、それらについて調査研究を進める。そして、当時の余市湾における物流交易の様相を明らかにし、海を中心とした町の発展や過去の話となりつつあるニシン漁が町の発展に寄与した歴史を再整理する。

■併せて、研究の成果を基礎資料とし、小中学生を対象とした「海の歴史」学習プログラムを構築し、余市町における「海の歴史」学習が促進され、海の歴史が再認識される一助となり、子供たちが過去から現在に至る海の歴史を学び、地域の誇りを醸成することに繋がると考えられる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■高橋 美鈴（余市町教育委員会 係長）

【調査研究分担者】

■三浦 泰之（北海道博物館・歴史研究グループ 学芸主幹）

■東 俊佑（北海道博物館・歴史研究グループ 学芸主査）

■浅野 敏昭（余市町教育委員会・社会教育部長）

【実施計画】

■1カ年計画1年目

【主な調査研究対象など】

■余市水産博物館所蔵「林家文書」再整理及び悉皆調査

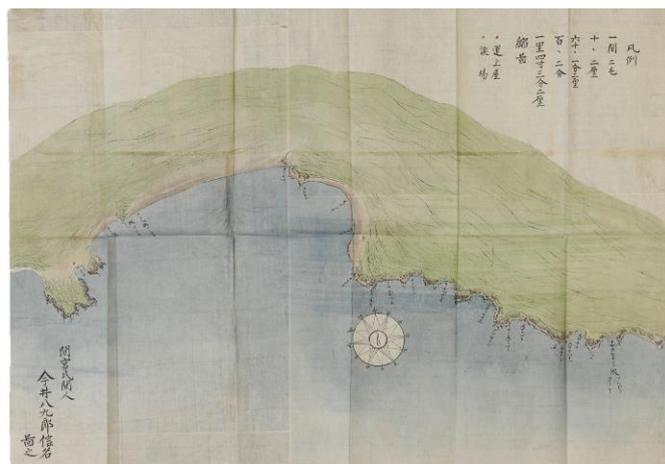
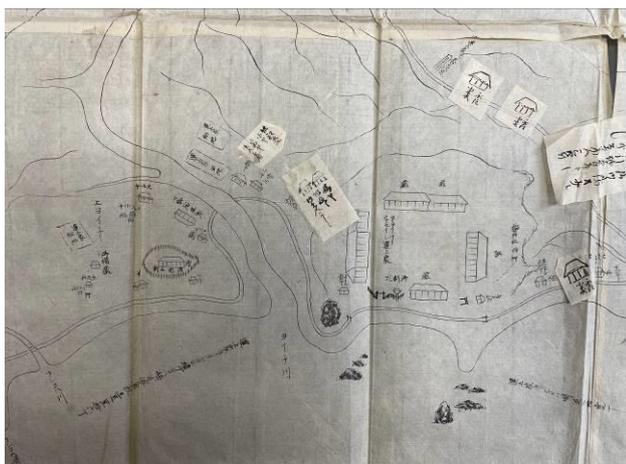
■他施設所蔵「林家文書」の調査



旧下ヨイチ運上家

「旧下ヨイチ運上家」の場所請負人・林長左衛門が残した「林家文書」は、運上家の運営や漁場での生活を知る重要な資料である「林家文書」の横断的かつ悉皆的な調査を行い、その中から町の歴史に関する事柄を抜き出し、それらについて調査研究を進める。そして、当時の余市湾における物流交易の様相を明らかにし、海を中心とした町の発展や過去の話となりつつあるニシン漁が町の発展に寄与した歴史を再整理する。

併せて、研究の成果を基礎資料とし、小中学生を対象とした「海の歴史」学習プログラムを構築する。



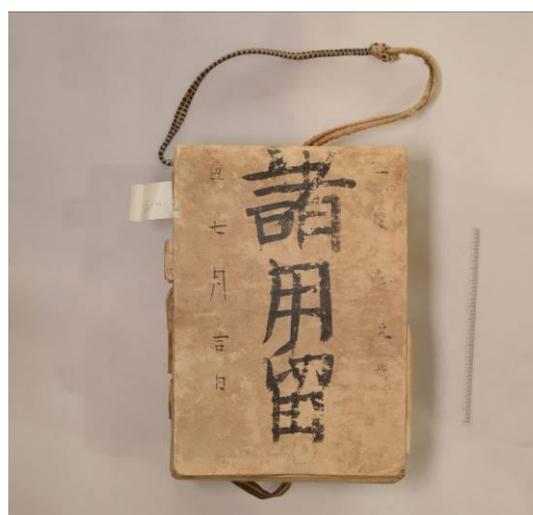
資料調査の状況（宮城学院女子大学所蔵史料）

船の科学館 海の学びミュージアムレポート
 プログラム「海の学び調査・研究レポート」支援事業

余市湾を中心とした「海の歴史」
 学習プログラムの構築に係る基礎的研究
 —「林家文書」からみよ子場所における
 近世場所請負制度の様相—



成果報告展パネル



資料調査の状況
 （余市水産博物館所蔵史料）

「林家文書」は、その数が膨大であることや資料の散逸により資料の所有施設が複数ある。そのため、調査研究及び利活用が困難であり、横断的な資料調査及び目録の作成が急務となっている。そのため、調査では、余市水産博物館（余市町教育委員会）所蔵資料及び宮城学院女子大学所蔵史料の調査を行い、町の歴史に関する事柄及び学習プログラムに利用する海に関連する部分のみを抽出することで「海の歴史」学習プログラムの基礎的研究とした。

とくに、本事業での調査は、宮城学院女子大学所蔵史料は目録が整備され、今後の調査研究の基礎資料となることが期待できる。

また、本事業の成果は、余市町中央公民館において「成果報告展」としてパネル展で発表を行った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：「海の歴史」学習プログラム及びアウトリーチ教材の作成

■実施時期：2025年3月頃

■実施場所：余市水産博物館

【実施内容】

■「海の歴史」をテーマに、江戸時代から現在にかけての漁業の歴史を時代別に4つの内容に分けて学習プログラムを検討し、自分たちが住む町の歴史に「海」が密接にかかわっていることを再認識する機会を創出する。

■ニシンを中心に「本州との交易」や「アイヌと和人の関わり」、「ニシン漁場」、「環境問題」、「新たな漁業」について有効的な学習が行えるようアウトリーチ教材の検討・作成を行う。

■学習プログラム及びアウトリーチ教材は、プロトタイプを作成し、それらを用いた運用・再検討を行うことで、よりよい学習教材の提供を可能とする。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■小学校と協働での学習プログラム案の具体化

■作成したプログラムをもとにアウトリーチ教材のプロトタイプの作成及び運用

【特に学校教育との連携について】

■学習プログラム案について、学校と協働で具体化させることにより、学校で海の歴史について学習する機会をつくる。

■学習プログラム案をもとにアウトリーチ教材のプロトタイプを作成する。また、アウトリーチ教材には視聴覚教材・ハンズオン資料中心にし、子供たちが深い学びを得られるようになる。

【事業全体のまとめ】

本事業の研究成果を基に、①【江戸時代】ヨイチ場所の頃の余市（林家文書からみる海の歴史）②明治～昭和】ニシンと漁場③【令和】今はどんな漁業？④【未来の漁業】私たちができること（環境問題）と時代別に大きく4つの内容の「海の歴史」トランクキットを用いた学習プログラム（案）を作成することができた。

今後は、これらの学習プログラム案を学校と協働で具体化するとともにアウトリーチ教材を充実させることで、余市町における「海の歴史」教育の発展の一助としたい。

なお、本調査の成果は、余市水産博物館活動協力会発行『余市水産博物館研究報告』第18号に掲載予定である。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 宮城学院女子大学	資料調査の協力
2. 余市町立黒川小学校	学習プログラム案に対する助言

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 余市水産博物館研究報告	余市湾を中心とした「海の歴史」学習プログラムの構築に係る基礎的研究―「林家文書」からみるヨイチ場所における近世場所請負制度の様相―
2. 余市水産博物館研究報告	ヨイチ運上家の年中行事と仕事暦

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。